

表 1. とうもろこし子実における残留調査事例

農薬名	処理量 (g ai/ha)	処理 回数	PHI	平均残留値 (mg/kg)	出典
1 アセタミプリド 1996	1000 ^{SP}	3	14-28	< 0.04	農薬抄録
アセタミプリド 2006	90 ^{SL}	3	14-28	< 0.05	農薬抄録
アセタミプリド 2008	1000 ^{SP}	3	1-14	< 0.01	農薬抄録
2 アセフェート 2002	1000 ^{WP}	2	7-21	0.05~ <0.01	農薬評価書
		2	7-21	0.02~ <0.01	
3 イミダクロプリド 1994	6.66 ^{SC} 種子, 200 ^{SC} ×2	3	14-21	< 0.01	農薬評価書
イミダクロプリド 2000	6.66 ^{SC} 種子, 100 ^{SC} ×2	3	14-21	< 0.01	農薬評価書
4 エトフェンプロックス 1984	500 ^{EC}	4	7-14	< 0.01	農薬評価書
エトフェンプロックス 1984	500 ^{EC}	4	7-14	0.06~ <0.01	農薬評価書
5 クロチアニジン 2004	100-150 ^{SG}	2	7-42	< 0.005	農薬評価書
6 ジメテナミド 1992	1140 ^{BC}	1	92	< 0.01	農薬評価書
ジメテナミド 1993	1140 ^{BC}	1	90	< 0.01	農薬評価書
		1	115	< 0.01	農薬評価書
		1	110	< 0.01	農薬評価書
7 チアトキシサム 2004	100-150 ^{SG}	2	7-42	< 0.005	農薬評価書
8 チオベンカルブ 1979	5000 ^{SG}	1	91-101	< 0.005	農薬評価書
チオベンカルブ 1996	4000 ^{SG}	1	115-131	< 0.01	農薬評価書
9 テブコナゾール 2004	200-400 ^{EC}	3	15	0.03	農薬評価書 (海外データ)
テブコナゾール 1995	200-400 ^{EC}	3	15	< 0.1	農薬評価書 (海外データ)
テブコナゾール 1994	250 ^{WP} ×3	3	3-21	< 0.1	農薬評価書 (海外データ)
テブコナゾール 1994	500 ^{WP} ×3	3	15	< 0.1	農薬評価書 (海外データ)
10 ハロスルフロンメチル 1996	50 ^{WP}	1	94	< 0.01	農薬評価書
		1	55	< 0.01	農薬評価書
11 フルフェンピルエチル				定量限界未満	農薬評価書 (海外データ)
12 フルベンジアミド 2004 (例数10)	104-113 ^{SC}	4	1-2	< 0.010	農薬評価書 (海外データ)
フルベンジアミド 2005	105-109 ^{SC}	4	1	< 0.010	農薬評価書 (海外データ)
			1-10	< 0.010 ~0.011	農薬評価書 (海外データ)
13 ペンディメタリン 1978	1200 ^{EC}	1	89	< 0.005	農薬評価書
		1	80	< 0.005	農薬評価書
14 メソトリオン 2004 (土壌処理)	182 ^{WP}	1	83	< 0.002	農薬評価書
メソトリオン 2004 (茎葉散布)	182 ^{WP}	1	86	< 0.002	農薬評価書
		1	55	< 0.002	農薬評価書
		1	71	< 0.002	農薬評価書
15 メトラクロール 1979	2250 ^{EC}	1	105	< 0.01	農薬評価書
メトラクロール 1986	1800 ^{EC}	1	99	< 0.01	農薬評価書
		1	55	< 0.01	農薬評価書
		1	71	< 0.01	農薬評価書
16 S-メトラクロール 1979 (茎葉散布)	2250 ^{EC}	1	105	< 0.01	農薬抄録
S-メトラクロール 1979 (土壌処理)	1800 ^{EC}	1	99	< 0.01	農薬抄録
		1	92-118	< 0.01	農薬抄録
		1	84-118	< 0.01	農薬抄録

分析値が複数ある場合には、高濃度分析値を記載

ai: 有効成分, PHI: 最終使用から収穫までの日数

SP: 水溶剤, SL: 液剤, WP: 水和剤, SC: フロアブル, EC: 乳剤, SG 顆粒水和剤

海外データの内、フルベンジアミドの分析部位は「子実+穂軸」、その他薬剤の詳細は不明(乾燥子実も含む)。

表 2. とうもろこしの子実と穂軸における残留調査事例

農薬名	子実	穂軸	子実の記載名
1 [met- ¹⁴ C]イミダクロプリド	0.03	< 0.09	乾燥子実
2 ¹⁴ C-エトプロホス	0.25	≡ 0.27	穀粒
3 ¹⁴ C-グルホシネート	0.034	< 0.066	種子
4 ¹⁴ C-シロマジン	0.02	≡ 0.02	穀粒
5 [thi-3- ¹⁴ C]ジメテナミド	0.021	> 0.012	未成熟穀粒
6 ニトラピリン	ND	≡ ND	穀粒
7 ¹⁴ C-ベンダイオカルブ	0.005	> 0.001	粒
8 ¹⁴ C-メソトリオン	0.013	< 0.020	子実
9 ¹⁴ C-メトラクロール	0.02	≡ 0.02	子実

代謝物を含む総残留放射能濃度 (mg/kg)

出典： 農薬評価書

表 3. 仁果類の作物残留性調査における分析対象農薬情報

検討対象農薬名	英名	分子量	保持時間(分)	プリカーサ イオン (m/z)	プロダクト イオン (m/z)	フラグメン タ電圧 (V)	コリジョン 電圧(eV)	測定 モード
イミダクロプリド	Imidacloprid	255.7	2.1	256.1	209.1	100	10	+
シメコナゾール	Simeconazole	293.4	3.2	294.2	70.1	100	15	+
ピラクロストロビン	Pyraclostrobin	387.8	4.2	388.2	163.1	100	23	+
フルフェノクスロン	Flufenoxuron	488.8	5.1	489.0	158.1	100	15	+
フルベンジアミド	Flubendiamid	682.4	3.8	680.9	254.1	150	25	-
ボスカリド	Boscalid	343.2	3.4	343.0	307.1	150	15	+

表 4. 根菜類の作物残留性調査における分析対象農薬情報

検討対象農薬名	英名	分子量	保持時間(分)	プリカーサ イオン (m/z)	プロダクト イオン (m/z)	フラグメン タ電圧 (V)	コリジョン 電圧(eV)	測定 モード
アセタミプリド	Acetamiprid	222.7	4.3	223.0	126.0	100	20	+
アゾキシストロビン	Azoxystrobin	403.4	5.5	404.0	372.0	100	10	+
クロルフェナピル	Chlorfenapyr	407.6	4.8	348.7	80.9	150	40	-
シアゾファミド	Cyazofamid	324.8	6.1	324.9	108.0	100	8	+
ジノテフラン	Dinotefuran	202.2	3.3	203.0	129.2	100	5	+
トルフェンピラド	Tolfenpyrad	383.9	6.9	384.1	197.1	150	20	+

表 5. 仁果類での添加回収率の算出及び安定性確認結果

作物	農薬名	分析部位	無処理区 平均 (mg/kg)	平均回収率(%)*						保存 安定性 (%)
				0.01 mg/kg添加		0.5 mg/kg添加		1 mg/kg添加		
				平均	RSD	平均	RSD	平均	RSD	
りんご (山梨)	イミダクロプリド	可食部	<0.01	88	2.4	99	1.5	-	-	88
		除去部	<0.01	77	0.7	95	2.2	-	-	96
		全果実	<0.01	89	2.6	100	2.1	-	-	90
	シメコナゾール	可食部	<0.01	96	3.7	99	2.9	-	-	86
		除去部	<0.01	93	4.5	99	3.2	-	-	95
		全果実	<0.01	96	1.6	100	1.7	-	-	92
	ピラクロストロピン	可食部	<0.01	95	2.2	98	3.7	-	-	86
		除去部	<0.01	98	10.4	99	3.2	-	-	88
		全果実	<0.01	90	3.4	96	3.6	-	-	90
	フルフェノクスロン	可食部	<0.01	84	6.3	92	3.3	-	-	77
		除去部	<0.01	95	2.1	91	3.8	-	-	85
		全果実	<0.01	87	9.5	88	6.3	-	-	89
	フルベンジアミド	可食部	<0.01	100	2.1	101	1.5	-	-	90
		除去部	<0.01	105	0.6	101	2.6	-	-	88
		全果実	<0.01	103	2.4	99	2.3	-	-	94
ボスカリド	可食部	<0.01	99	5.2	99	5.6	-	-	87	
	除去部	<0.01	101	1.7	97	3.6	97	3.2	92	
	全果実	<0.01	104	7.1	100	4.1	-	-	94	
りんご (長野)	イミダクロプリド	可食部	<0.01	102	3.0	83	7.4	-	-	96
		除去部	<0.01	84	1.8	97	1.0	-	-	90
		全果実	<0.01	108	7.4	106	2.4	-	-	92
	シメコナゾール	可食部	<0.01	98	4.1	87	5.8	-	-	101
		除去部	<0.01	94	1.8	101	0.6	-	-	91
		全果実	<0.01	109	0.5	110	1.1	-	-	88
	ピラクロストロピン	可食部	0.02	98	10.7	85	5.3	-	-	90
		除去部	0.02	97	1.6	97	0.6	-	-	88
		全果実	0.02	113	5.8	101	1.5	-	-	85
	フルフェノクスロン	可食部	<0.01	93	5.4	85	8.2	-	-	94
		除去部	<0.01	97	1.6	92	1.9	-	-	85
		全果実	<0.01	94	4.9	96	1.0	-	-	82
	フルベンジアミド	可食部	<0.01	97	4.9	94	3.8	-	-	92
		除去部	0.01	94	4.0	101	1.5	-	-	90
		全果実	<0.01	105	1.1	105	0.5	-	-	92
ボスカリド	可食部	0.03	79	7.0	87	9.3	-	-	97	
	除去部	0.04	104	8.0	105	3.4	101	3.4	93	
	全果実	0.04	113	4.9	114	1.8	-	-	85	

*表中「-」は検討対象外。無処理区で検出された場合、分析値を差し引いて回収率を算出。

表 6. 仁果類での残留分析結果

作物	農薬名	分析部位*	平均試料重量 (g/個)	平均残留値 (mg/kg)	換算係数**	全果実での実測残留値/ 部位別測定値から算出した 全果実の残留値(%)
りんご (山梨)	イミダクロプリド	可食部	255	0.10	1.10	96
		除去部	55	0.18		
		全果	310	0.11		
	シメコナゾール	可食部	255	0.16	1.06	85
		除去部	55	0.38		
		全果	310	0.17		
	ピラクロストロピン	可食部	255	0.20	1.15	102
		除去部	55	0.34		
		全果	310	0.23		
	フルフェノクスロン	可食部	255	0.23	1.13	101
		除去部	55	0.38		
		全果	310	0.26		
フルベンジアミド	可食部	255	0.24	1.17	108	
	除去部	55	0.35			
	全果	310	0.28			
ボスカリド	可食部	255	0.37	1.14	95	
	除去部	55	0.77			
	全果	310	0.42			
りんご (長野)	イミダクロプリド	可食部	246	0.07	1.14	98
		除去部	72	0.12		
		全果	318	0.08		
	シメコナゾール	可食部	246	0.03	1.67	84
		除去部	72	0.16		
		全果	318	0.05		
	ピラクロストロピン	可食部	246	0.10	1.40	93
		除去部	72	0.32		
		全果	318	0.14		
	フルフェノクスロン	可食部	246	0.06	1.33	97
		除去部	72	0.16		
		全果	318	0.08		
フルベンジアミド	可食部	246	0.28	1.00	97	
	除去部	72	0.32			
	全果	318	0.28			
ボスカリド	可食部	246	0.28	1.14	94	
	除去部	72	0.55			
	全果	318	0.32			

* 全果実=可食部(果肉+果皮)+非可食部(花落ち+芯)

** 換算係数: 国内慣行での残留値(可食部のみ)を国際基準(全果実)に換算するための係数

表 7. 根菜類での添加回収率の算出及び安定性確認結果

作物	農薬名	分析部位	無処理区		平均回収率(%) ^a								保存 安定性 (%)
			平均 (mg/kg)	RSD	0.01 mg/kg添加		0.5 mg/kg添加		5 mg/kg添加		10 mg/kg添加		
					平均	RSD	平均	RSD	平均	RSD	平均	RSD	
かぶ (茨城)	アセタミプリド	葉部	<0.01	96	4.8	98	4.1	-	-	101	0.6	86	
		接合部	<0.01	94	1.6	102	0.0	102	2.0	-	-	90	
		根部	<0.01	97	2.6	100	3.8	-	-	-	-	86	
	アゾキシストロピン	葉部	<0.01	103	3.0	96	2.4	-	-	97	1.6	92	
		接合部	<0.01	104	1.9	98	0.6	102	1.5	-	-	92	
		根部	<0.01	106	0.5	97	2.1	-	-	-	-	94	
	クロルフェナピル	葉部	<0.01	104	5.1	95	0.6	-	-	90	0.6	87	
		接合部	<0.01	101	3.0	81	3.3	98	1.8	-	-	86	
		根部	<0.01	99	2.7	91	1.1	-	-	-	-	88	
	シアゾファミド	葉部	<0.01	98	5.1	100	1.5	-	-	101	1.0	97	
		接合部	<0.01	92	4.5	101	0.6	102	2.5	-	-	94	
		根部	<0.01	96	2.2	100	3.6	-	-	-	-	94	
ジノテフラン	葉部	<0.01	102	3.0	97	2.1	-	-	99	2.7	99		
	接合部	<0.01	101	3.2	100	1.5	100	2.0	-	-	96		
	根部	<0.01	102	8.9	101	2.6	-	-	-	-	99		
トルフェンピラド	葉部	<0.01	103	3.1	90	2.2	-	-	87	0.0	85		
	接合部	<0.01	95	2.2	90	1.7	89	2.3	-	-	84		
	根部	<0.01	100	0.6	89	3.0	-	-	-	-	84		
かぶ (宮崎)	アセタミプリド	葉部	<0.01	92	1.9	98	0.6	-	-	104	1.5	86	
		接合部	<0.01	96	3.2	99	3.1	104	1.7	-	-	88	
		根部	<0.01	97	2.4	98	1.6	-	-	-	-	83	
	アゾキシストロピン	葉部	<0.01	100	2.6	95	0.6	-	-	96	0.6	90	
		接合部	<0.01	101	1.1	95	1.1	103	1.7	-	-	90	
		根部	<0.01	104	0.6	96	0.6	-	-	-	-	87	
	クロルフェナピル	葉部	<0.01	98	2.4	93	1.6	-	-	91	4.6	92	
		接合部	<0.01	101	4.0	93	3.2	90	0.6	-	-	91	
		根部	<0.01	96	4.8	91	2.8	-	-	-	-	92	
	シアゾファミド	葉部	<0.01	93	2.2	97	1.8	-	-	101	2.6	97	
		接合部	<0.01	94	1.6	93	2.2	101	3.0	-	-	96	
		根部	<0.01	98	4.6	100	2.1	-	-	-	-	92	
ジノテフラン	葉部	<0.01	101	1.0	97	1.0	-	-	97	1.6	99		
	接合部	<0.01	95	4.6	98	1.6	100	1.5	-	-	99		
	根部	<0.01	100	2.5	101	1.0	-	-	-	-	94		
トルフェンピラド	葉部	<0.01	91	2.5	84	0.0	-	-	92	3.5	83		
	接合部	<0.01	90	2.9	85	1.8	89	3.0	-	-	80		
	根部	<0.01	101	4.0	87	3.4	-	-	-	-	80		

^a 3連で実施。表中「-」は検討対象外

表 8. 根菜類での残留分析結果

作物	農薬名	分析部位	平均試料重量 (g/個)	平均残留値 (mg/kg)	部位別の残留量/ 試料全体の残留量 (%) [*]
かぶ (茨城)	アセタミプリド	葉部	104	0.78	98
		接合部	14.8	0.02	<1
		根部	150	0.01	2
	アゾキシストロビン	葉部	104	5.88	97
		接合部	14.8	1.29	3
		根部	150	0.02	<1
	クロルフェナピル	葉部	104	4.99	97
		接合部	14.8	1.04	3
		根部	150	0.02	1
	シアゾファミド	葉部	104	4.26	97
		接合部	14.8	0.87	3
		根部	150	0.01	<1
	ジノテフラン	葉部	104	2.7	93
		接合部	14.8	0.74	4
		根部	150	0.07	3
	トルフェンピラド	葉部	104	5.36	95
		接合部	14.8	1.57	4
		根部	150	0.06	2
かぶ (宮崎)	アセタミプリド	葉部	364	0.94	98
		接合部	122	0.01	<1
		根部	614	<0.01	2
	アゾキシストロビン	葉部	364	5.86	98
		接合部	122	0.34	2
		根部	614	<0.01	<1
	クロルフェナピル	葉部	364	3.84	98
		接合部	122	0.22	2
		根部	614	<0.01	<1
	シアゾファミド	葉部	364	4.24	97
		接合部	122	0.34	3
		根部	614	<0.01	<1
	ジノテフラン	葉部	364	4.46	96
		接合部	122	0.4	3
		根部	614	0.02	1
	トルフェンピラド	葉部	364	6.54	97
		接合部	122	0.58	3
		根部	614	<0.01	<1

* 残留量は分析値が定量限界未満の時、定量限界相当量(0.01 mg/kg)で算出

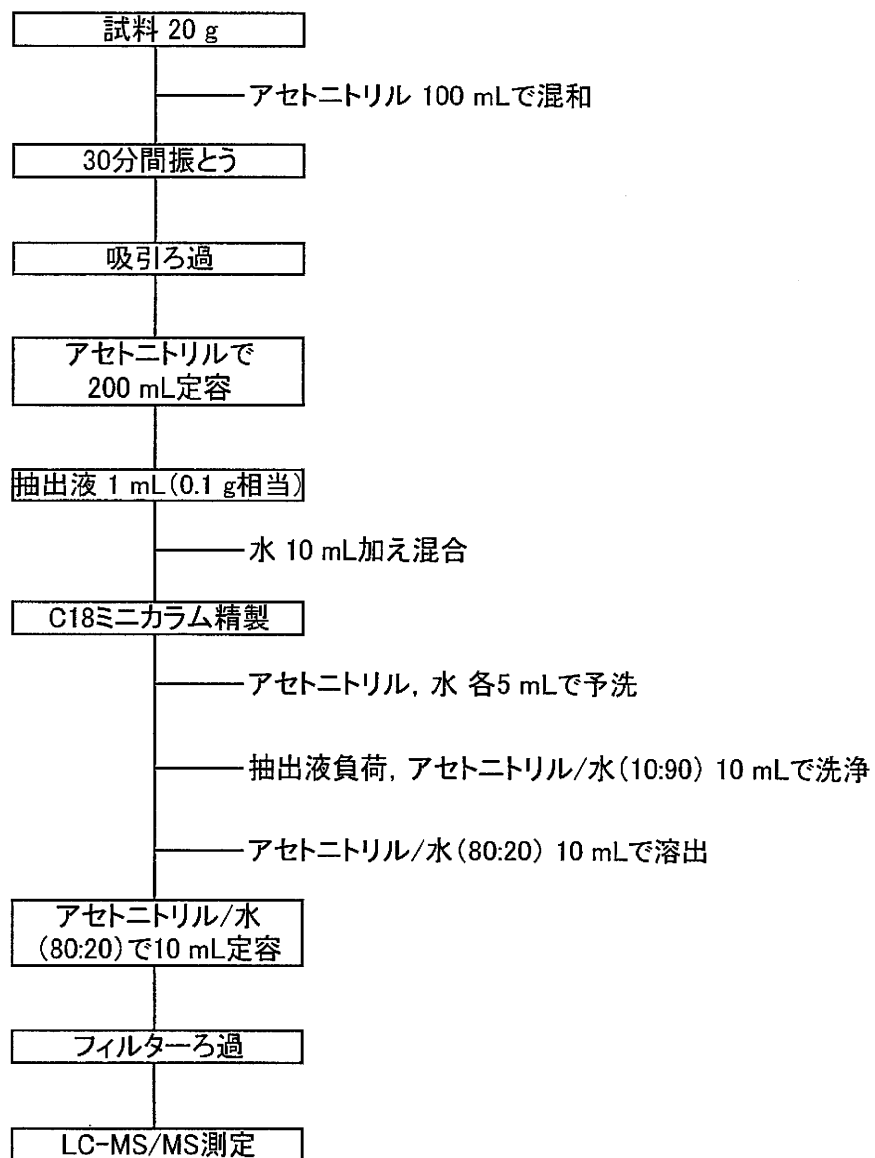


図 1. 仁果類での残留分析工程の概要

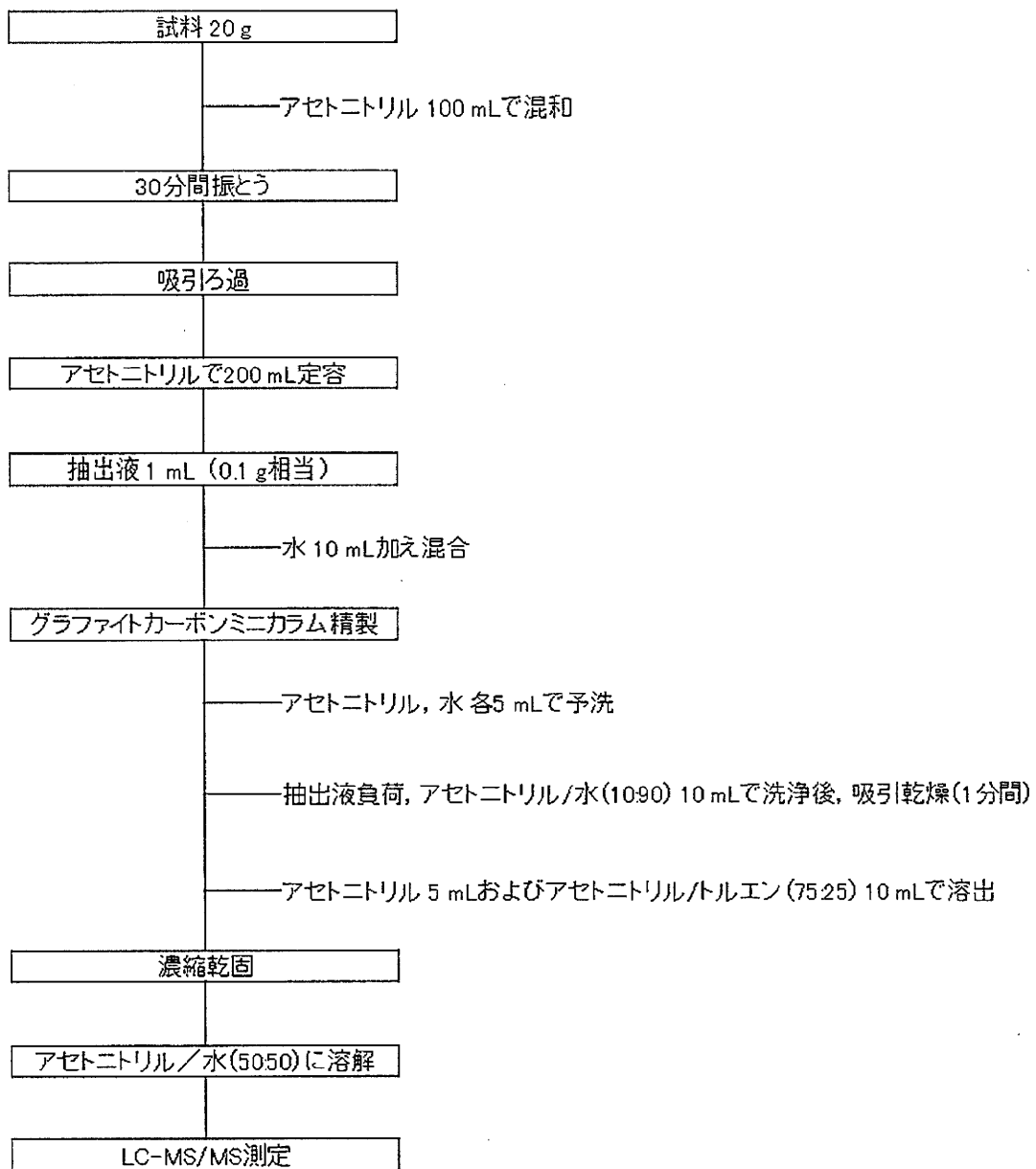


図 2. 根菜類での残留分析工程の概要

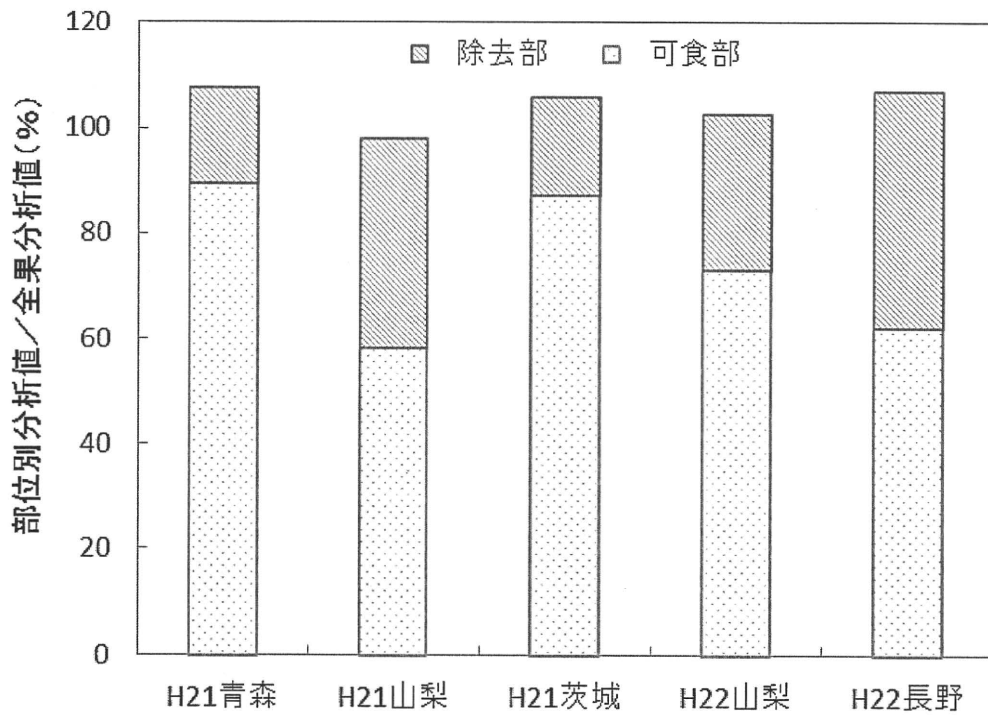


図 5. 仁果類における 6 農薬の平均残留値の部位別分布
 H21 茨城試料は日本なし，その他はりんご試料

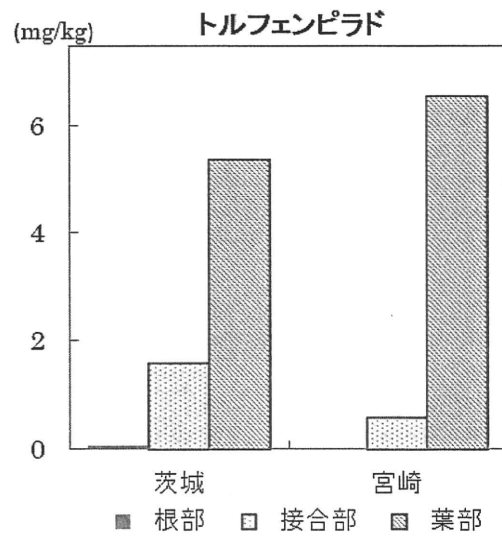
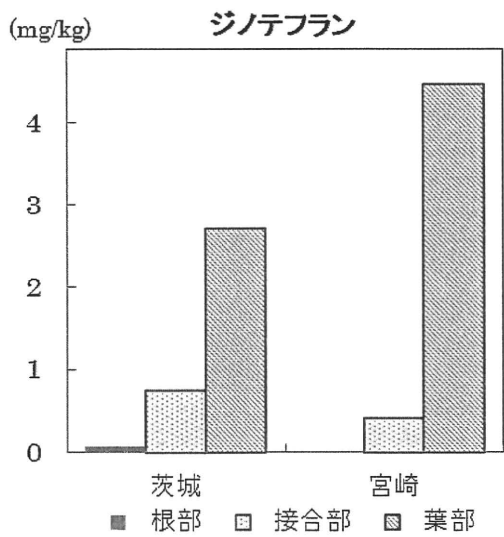
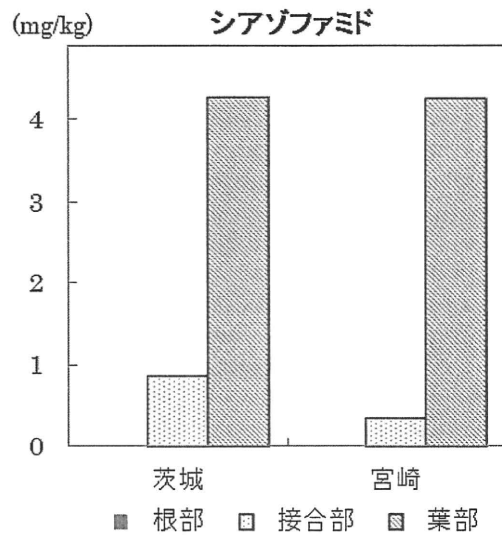
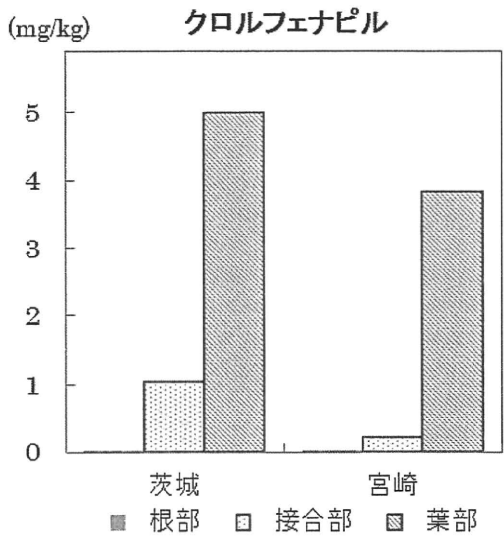
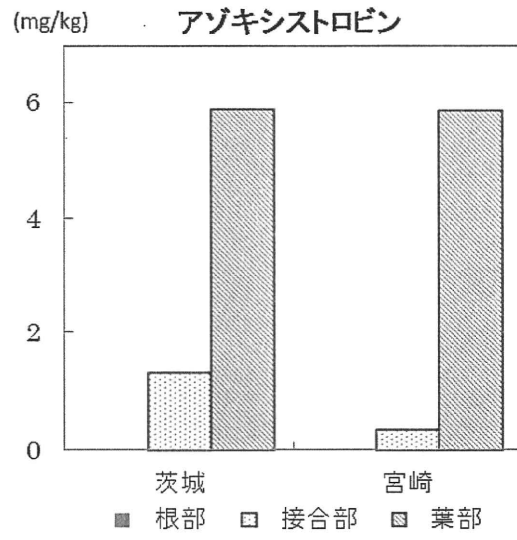
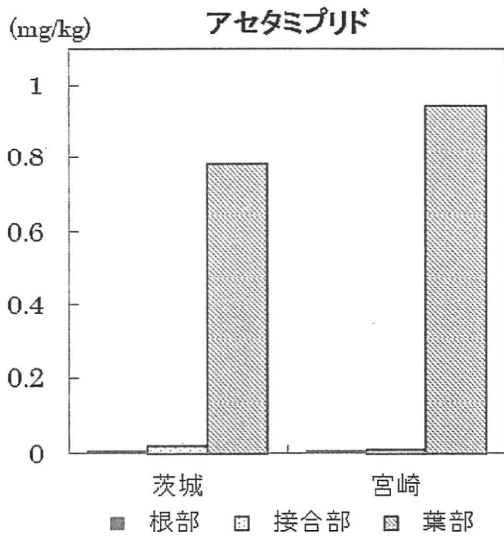


図 6. かぶにおける部位別の 2 圃場の平均残留値

1.2. 試料採取 (試料番号は試料送付時に「送付カード」(別添様式) に記入したものを記載する)

区分	A区	B区	C区	D区	E区	F区	G区	試料採取時刻と天候	試料採取順 (区番号順)	試料送付量	試料送付月日
採取月日	10月26日	A	B					B区: 9時50分~10時・曇り A区: 12時~12分・曇り	B→A	B区21個(6.8kg)×1分析 A区20個(9.6kg)×1分析	10月26日
月日										各区 以上× 分析	月日
月日										各区 以上× 分析	月日
月日										各区 以上× 分析	月日
月日										各区 以上× 分析	月日
月日										各区 以上× 分析	月日

区分	送付試料について (試料番号に○を付し、必要に応じてその原因を記載する)
採取月日	10月26日
月日	
月日	
月日	
月日	
月日	

- (1) 試料採取方法 従来した器具(籠籠) 採取方法の詳細
農林省農研院等のための検査方法を記載
- (2) 採取後の調理・梱包方法 試料採取後の加工、包装、保管の指示、温度、湿度
試料、取り扱ひの注意、同等の試料採取方法に55号共同研究員長を記載
- (3) 試料送付先 分析機関: 財団法人 茨城県農研研究所
送付日付: 10月26日
- (4) 試料の輸送方法 ヤマト運輸(株)のクール宅急便(冷蔵)で翌日・午前中に到着指定で送付した。
- (5) 備考

1) 製) 気 象 表 試験実施場所は観測地点から約 11 km北
 主な要素

平均風速	風向・風速(m/s)					日照時間(h)	雪(cm)	
	最大風速		最大瞬間		最多風向		降雪合計	最深積雪値
	風速	風向	風速	風向				
1.7	5.0	南東	9.4	南東	南東	3.1	///	///
3.3	6.4	東南東	11.7	南東	東南東	9.3	///	///
2.0	4.9	東南東	8.8	東南東	東南東	6.2	///	///
0.6	2.3	西	3.7	南南西	南西	2.2	///	///
1.5	3.9	南南東	7.5	南東	南東	4.5	///	///
1.7	5.4	東南東	8.9	東南東	南東	5.3	///	///
2.5	6.3	南東	11.3	南東	東南東	9.5	///	///
2.8	5.5	南東	10.0	南東	東南東	7.2	///	///
1.4	5.0	東南東	8.4	南東	東南東	0.0	///	///
0.8	2.9	南東	5.2	南東	南南東	6.1	///	///
1.2	4.8	東南東	7.6	南南東	東南東	9.8	///	///
1.0	4.0	東南東	7.3	東南東	南東	4.5	///	///
1.4	3.9	東南東	6.4	東南東	南東	7.5	///	///
2.1	5.1	東南東	9.8	南東	南東	2.4	///	///
1.1	4.4	東南東	7.2	南東	南東	6.4	///	///
1.2	4.5	東南東	8.4	東南東	南東	5.2	///	///
0.7	2.2	南東	4.2	南東	北東	1.4	///	///
2.0	5.6	東南東	8.8	東	東南東	6.6	///	///
3.0	4.7	東南東	9.6	南東	東南東	0.1	///	///
0.7	2.5	西北西	4.8	東南東	南東	0.0	///	///
1.2	4.7	東南東	8.3	東南東	東南東	0.0	///	///
3.7	6.8	南東	11.8	東南東	東南東	1.3	///	///
2.9	5.4	南東	10.0	南東	東南東	6.5	///	///
0.4	1.5	東	2.8	北東	南東	0.0	///	///
0.5	2.8	西	5.1	西北西	南南東	1.7	///	///
2.0	6.8	東南東	12.7	南東	南南西	0.3	///	///
2.1	5.3	東南東	10.1	南東	東南東	4.7	///	///
0.9	4.6	東南東	9.6	東	東南東	0.0	///	///
2.4	6.7	東南東	12.5	南東	東南東	0.1	///	///
1.0	4.2	東南東	8.5	東南東	北東	0.0	///	///
1.2	5.3	東南東	9.2	東南東	東南東	0.0	///	///

資料 2. 根菜類の試料調製明細書

(H22厚生労働科研究:かぶ)

平成22年度 厚生労働科研究作物試料調製明細書

(試験期間 22年11月～12月)

試験場名 社団法人 日本植物防疫協会茨城研究所

1. 試験物質

(1) 一般名・剤型
 ①クロロフェニピル(コテツ)フロアブル
 ②アジキシトロピン(アミスター20)フロアブル
 ③シアゾファミド(ランマン)フロアブル
 ④ジノテフラン(スタークル)顆粒水溶剤
 ⑤アセタミプリド(モスピラン)水溶剤
 ⑥トルファンピラド(ハチハチ)乳剤
 ⑦トルファンピラド 10%

(2) 有効成分名及び成分含有率
 ①アジキシトロピン 20%
 ②シアゾファミド 10%
 ③ジノテフラン 20%
 ④アセタミプリド 20%
 ⑤トルファンピラド 1.5%

(3) 試験物質の Lot No.
 ① 13-1010M01
 ② 13-10 GAC504
 ③ 12-10 S1K-04
 ④ 13-10 92F30029
 ⑤ 12-10 A9B16
 ⑥ 11-10 8D95B

2. 農作物名 かぶ 品種名 耐病ひかり

3. 試験実施機関名 社団法人 日本植物防疫協会茨城研究所

試験圃場所在地 茨城県牛久市結東町535番地

4. 試験責任者氏名 森田 久孝、A.T 昭隆

5. 土性 砂土・砂壤土(硬土・硬粘土・粘土(○を付す)) 減水深 - cm/日

6. 過去1年間に作付した作物および使用した農薬(別紙として提出)
 別紙1に記載。

7. 栽培概要
 栽培期、移植期、苗の品種・株・時期、移植、栽培密度(畝間・株間・株数/10a)、水管理等、
 農薬使用(使用薬剤の種類・回数、いもご、おろろ等の防除時期、薬剤の濃度、使用時期の記載等)を記載する。
 露地・施設の別 施設(ビニールハウス) 有袋・無袋の別 -
 播種:平成22年9月24日、栽培密度:畝間140cm、株間約10cm、9条時き、約21,400株/10a
 施肥:(10a当たり):9月24日配合594(5-9-4)80kg、BM 399(10-20-0)25kg
 無加菌栽培、その他管理は慣行に従った。
 収穫期間(適期):12月上旬～12月中旬

8. 生育ステージ -

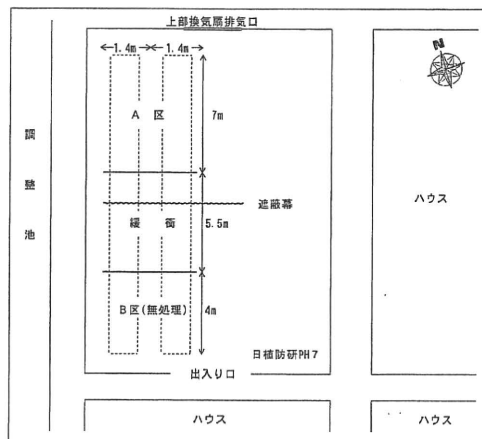
9. 試験物質以外に使用した農薬(別紙として提出)
 平成22年9月24日ジノ-MC 粒剤20kg/10a、10月1日ジノ-C 1000 1000倍
 10月29日、11月12日ジノ-C 1000 1000倍、スターノ 顆粒水溶剤5000倍

10. 試験区

(1) 試験区の面積および本(株)数 A区: 19.6㎡(7m×1.4m×2畝)約420株
 B区(無処理): 11.2㎡(4m×1.4m×2畝)約240株

(2) 施設の場合、面積・容積・高さ 面積:116.2㎡ 高さ:3.4m

(3) 試験区の配置図(試験区および周辺地等の状況がわかるように入力して下さい。記入できない場合は別紙として提出して下さい)
 ア) 下向きの点を結び、試験区および無処理区の配置関係を併記して下さい。基準1畝は点を○で囲んで下さい。必要に応じて株の成長方を記載して下さい。
 イ) 試験区および無処理区と無処理区との距離を記入して下さい。
 ウ) 圃場の敷方向、方位および圃場の傾斜方向を記入して下さい。圃場は排水口および排水口を記入して下さい。



(H22厚生労働科研究:かぶ)

試験場名 社団法人 日本植物防疫協会茨城研究所

1.1. 処理方法(下のA～G欄へは該当する処理日に「○」あるいは剤型を記載する)

区分 処理日	A区	B区	C区	D区	E区	F区	G区	処理濃度	処理量		処理時の生育 ステージ	処理方法(概略)
									10a当	試験区当(農薬量/散布量/面積)		
H22.11.18日	スターノ	無処理						2000倍	186L	試験区当(農薬量/散布量/面積) 1.8g / 3.6L / 19.6㎡	根肥大期	茎葉散布
11月25日	スターノ							2000倍	186L	733g 1.8ml スターノ 1.8ml スターノ 3.6ml	根肥大期 (草丈約50cm)	茎葉散布(混用散布)
	スターノ						2000倍					
	スターノ						1000倍					
11月29日	スターノ							2000倍	186L	スターノ 1.8ml スターノ 1.2g	根肥大期 (草丈約50cm)	茎葉散布(混用散布)
	スターノ						3000倍					
12月2日	スターノ							2000倍	186L	スターノ 1.8ml 733g 1.8ml スターノ 3.6ml	根肥大期 (草丈約50cm)	茎葉散布(混用散布)
	スターノ						2000倍					
	スターノ						1000倍					
12月6日	スターノ							2000倍	186L	スターノ 1.8ml スターノ 1.2g	収穫期 (草丈約50cm)	茎葉散布(混用散布)
	スターノ						3000倍					
12月8日	スターノ							2000倍	186L	1.8ml / 3.6L / 19.6㎡	収穫期 (草丈約50cm)	茎葉散布

区分 処理日	処理方法の詳細、 処理時の環境条件等	処理時の天気 特に降雨の有無と降雨時間、処理時および処理直後の風が試験に及ぼした影響について記入する
11月18日		11:30～11:40 晴れ(日中晴れ時々曇り)、風の影響なし。
11月25日		10:55～11:05 晴れ(日中晴れのち曇り)、風の影響なし。
11月29日	青島式バッテリー駆動噴霧機(山製作所 MSB111)に、1頭口ノズル(狭角コンノズル)をつけ、株上から均一に散布した。	10:45～10:55 晴れ(日中晴れ)、風の影響なし。
12月2日		14:40～14:50 曇り(日中晴れのち曇り)、風の影響なし。
12月6日		10:35～10:45 曇り(日中晴れ時々曇り)、風の影響なし。
12月8日		14:10～14:20 晴れ(日中曇りのち晴れ)、風の影響なし。

(1) 農薬剤 使用せず。 使用した区番号 農薬剤名 濃度または量

(2) 備考
 試験薬剤の散布時には、薬液飛散による無処理区の汚染を防止するため、試験区間を高さ約1.6mのポリフィルムで遮断した。

12. 試料採取 (試料番号は試料送付時に「送付カード」(別添様式)に記入したものを記載する)

Table with columns for Date, Region (A-G), Sample No., Collection Time, Order No., Quantity, and Delivery Date.

Table for '送付試料について' (Regarding sample delivery) with columns for Date and detailed notes for each date.

- (1) 試料採取方法
(2) 採取後の調理・梱包方法
(3) 試料送付先
(4) 試料の輸送方法
(5) 備考

試験期間中の気象

観測地点および試料調製場所: 茨城県牛久市結束町535番地 (社)日本植物防疫協会茨城研究所 PH7

観測条件: 1時間毎の測定気温より算出した平均気温。

(22年)

Table showing daily temperature data for 2022, with columns for month, day, and temperature.

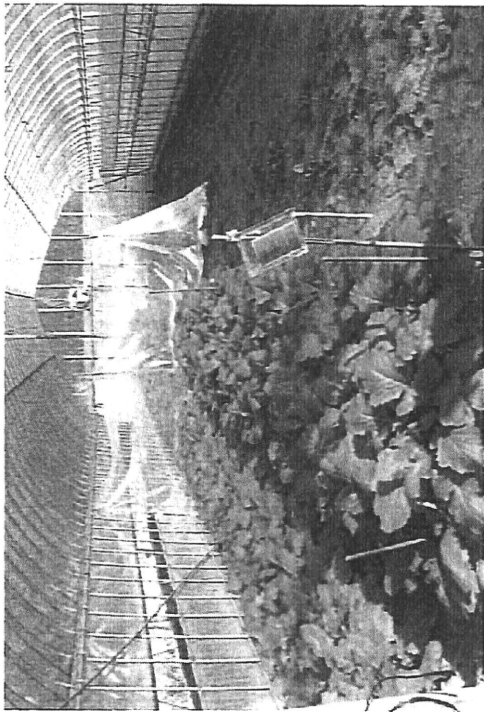
別紙1. 被験物質以外に使用した農薬

ミツバ : 平成21年12月2日トレノ乳剤2000倍

ピーマン: 平成22年 4月9日クワダリン・ネアベートくん蒸剤 30L/10a, 4月16日グエー#1000 1000倍
5月6日グエー#1000 1000倍・7トマイト-水和剤2000倍, 6月3日7トマイト-顆粒水和剤10000倍
6月28日, 7月5日, 7月12日キリフネトフアア #20 1000倍
7月5日グエー#2000倍, 7月8日トマイト #2000倍・7トマイト #1000倍
7月22日トマイト #2000倍, 8月7日チエス水和剤3000倍・7トマイト-顆粒水和剤10000倍・粘着くん液剤100倍
8月19日, 8月26日7トマイト #1000倍, 2000倍, 7トマイト乳剤1000倍, ストマイト-顆粒水和剤5000倍

別紙 2. 試験状況

1. 試験区全景 (手前B区、奥A区)



2. 散布状況



3. 採取状況



(22 - 厚労科研)

試験場名 (社)日植防宮崎試験場

1.2. 試料採取 (試料番号は試料送付時に「送付カード」に記入したものを記載する)

採取月日	区分	A区 試料番号	B区 試料番号	試料採取時刻と天候	試料採取順 (区番号順)	試料送付量	試料送付月日
12月4日	A	B		AM8:31-8:40, 8:50-9:00 晴れ	B→A	各区 4kg以上(5株) × 1分析	12月4日

採取月日	区分	送付試料について (該当項目に○を付し、必要に応じてその区画を記載する)
12月4日		1. 試料の大きさは (通常) 2. 熟度は (通常) 3. その他 () 4. 区画

- (1) 試料採取方法 使用した器具 (種類)、採取方法の詳細、
収穫後処理のための検取方法を記載
処理区、無処理区ともに南北の境界部を除き、偏りがないよう区全体から採取した。なお、採取は手で行った。
- (2) 採取後の調整・梱包方法
水道水で根部の土壌を洗い流し、枯葉・傷葉を手で取り除いて風乾した後、根部に穴あきポリ袋を被せ、包装資材 (商品名: ポーカスベーパー) を敷いたダンボール箱に入れ梱包した。
- (3) 試料送付先 公的分析機関: 財団法人 残留農薬研究所 社内分析機関: -
- (4) 試料の輸送方法 冷蔵/冷凍/常温 冷蔵/冷凍
保冷剤設置
ヤマト運輸株式会社 の便で、着日および冷蔵を指定し送付した。
- (5) 備考
梱包後、予冷 (5℃) を行った (AM9:15~0:30)。

(22 - 厚労科研)

試験場名 (社)日植防宮崎試験場

気象表

観測地点および試料調製場所 観測地点: 宮崎県宮崎市佐土原町下那珂 社団法人 日本植物防疫協会 宮崎試験場内 当該トンネル 記号 ○: 薬剤処理日

気温: 平均気温 (1 時間毎) 降水量: 日界 時

(22年)		測定時刻																														
月	日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
11	気温 (施設内温度)													16.6	17.9	15.0	11.9	12.7	11.6	12.2	13.7	14.4	14.7	13.7	12.6	18.4	10.7	9.6	10.8	10.6	10.7	
	降水量																															
	薬剤処理/試料採取 区記号 (試料番号)													○ A								○ A				○ A			○ A			
12	気温 (施設内温度)	13.6	14.5	12.6	10.2																											
	降水量																															
	薬剤処理/試料採取 区記号 (試料番号)	○ A		○ A	△ A, B																											

薬剤処理日 (ガス抜き等を含む)、試料採取日等を記号で記入する。なお施設試験の場合は該当する記号を「施設内温度」欄へ、露地試験の場合は「気温」欄へそれぞれ記入する。
また、薬剤処理日へは該当する区記号、試料採取日へは該当する試料番号 (送付カードと同様の番号) を当該欄へ記入する。

観測機器 気温: T&DおんどとりTR-72S

資料 3. 各種農産品及び飼料における各種農産品の分析部位 (FAO マニュアル準拠)
(仮訳, OECD Test Guideline No. 509, 2009, Table 1, p 26の抜粋)

作物	農産品	分析部位	圃場での試料量
とうもろこし, field = maize	穀粒	農産品全体 (外皮及び芯を除いた穀粒)	1 kg
	穀物由来の吸引物*	北米要求 - OPPTS860.1500 及び Directive 98-02 参照	
	飼料用とうもろこし (Fodder, Stover**)	農産品全体	12 個体 (葉が付いた状態の各茎を 3 等分したもの。先端から~4 節, 中間部 5~8 節, 下から 9~12 節のようにほぼ全体に渡る 12 節を含める)。
	飼料用とうもろこし (Forage)		Forage (生草, サイレージ) : 12 個体又は 1 kg 以上(芯などを適切に含む茎を, 前項と同様に処理したもの)。
とうもろこし, pop	穀粒	農産品全体 (外皮及び芯を除いた穀粒)	1 kg
	Stover**	農産品全体	とうもろこし, field を参照
とうもろこし, sweet	スイートコーン	外皮を除いた穀粒及び芯	12 個体から収穫した 12 本 (試料量 2 kg 以上・必要に応じて採取本数は増やす)。
	Stover**	農産品全体	とうもろこし, field を参照

注意: 本表は可能な限り既存用語を当てはめて翻訳し, 相応する日本語が無い場合にはカタカナ標記とした。農産品の名称等は日本語との対応が不明瞭な場合も多いため, 本表を参照する際には, 必ず原文を確認すること。

* 穀物由来の吸引物 (aspirated grain fractions, 旧称 grain dust) とは, 環境上及び安全上の対策として穀物集積所で回収されるものです。農薬残留データは, とうもろこし, ソルガム, 大豆又は小麦に対するポストハーベスト処理について提供されなければなりません。それは, 穀粒中の残留量が分析法の定量限界未満である場合を除き, 受粉期から種子形成期以降に処理される全てのプレハーベスト農薬に適用されます。一方, 植物代謝試験や加工調理試験において, 残留農薬が種子の外側 (例: 小麦のふすまや大豆の殻) に濃縮される傾向を示さない限り, (受粉期以前の) 生育期におけるプレハーベスト農薬では, 当該データは通常は必要ありません。これらのデータ要求は, 関係当局間で調整されます。

** Corn stover: 物粒や実 (芯+穀粒) を除いた後に, 茎葉部分を乾燥させたもので, 乾燥重量が80~85%のもの。